

皆さま

先週末パリへ行ってきましたが、何十年振りかで昔の日航ホテルに泊まりました。ネットの予約で「お得な secret hotel という、予約しないとホテル名がわからないと言うのをやってみました。エッフェル塔近くの4つ星でプールやジムもある大型ホテルというので、「NIKKO」かなと思って予約したところ NOVOTEL でがっかり。行ってって見たところ NOVOTEL は昔の「NIKKO」だったんですね。

高層棟の外壁は赤く塗り替えられ、品がありませんでしたが、中はきれいにしてありました。一時アラブの資本か何かに変わった時に中が薄汚くなった記憶がありますが、現在は清潔感のある(外壁の色以外は)結構しっかりしたホテルです。弁慶も健在でしたが、どうせお高いでしょうから、行きません。Bir-Hakeim のメトロの駅周りに2軒もお手頃すしやがありました。昔の日本駐在員相手の高級仕様では無い、大衆日本メシ屋のいいのがたくさんありますね、今のパリは。もちろん私はせっかくパリへ行って日本メシは食べませんが。

TGV でポアチエまで足を延ばして、ポアチエと Chauvigny のロマネスク教会を訪ねてきました。日本でもロマネスク教会ファンが増えているようですが、私もその一人です。

ダラム便りその17をお届けします。

増淵 文規

英国ダラム便り (その17)

[英国人の清潔感]

今を去ること40年にもなります。フランスで研修生をしていた時、とにかくフランス人は風呂に入らないし髪を洗わない。汚いよねと言う話を良くアメリカ人の学生としていたのを思い出します。アメリカ人は大のシャワー好きですし、イギリス人はその親すじに当たるわけでもあり、すごく清潔好きに見えます。女性はどうか知りませんが、フランスで下宿すると、シャワーの使い過ぎで大家のおばさんと揉めるケースが多いことから、男女とも Body Wash には余り時間を使わないのではないのでしょうか。お食事中なら申し訳ありませんが、フランス男性はトイレのあと手を洗わない人が多い。英国男性は良く洗います。一般に欧米人の体臭はきつく感じますが、英国では余り体臭を感じませんね、

ダラムが冷涼で汗をかかないせいもあるでしょうが、やはり Body Wash とデオドラントのなせる業だろうと思っています。ジムへ通っていますが、ベンチで着替えていると、鼻先で強烈なデオドラント・スプレーを浴びせられます。ほとんど全員がこれをやりますので、気管支の弱い私はむせてしまいます。シューっとやられた時に、うまく息を止めなければならない。きれい好きはわかるけれど他人の鼻先でやるなと怒鳴りたくなりますが、この辺の他人への配慮は全くない。アルマーニのような芳香スプレーならまだしも、そこらの安くて量の多いスプレーだから、変に甘ったるく臭いのです。ジム通いでこのつらい瞬間です。

シャワーの後びしょびしょの体でロッカーにやってくる輩も多く、水浸しで足の踏み場もないことも。この辺は気にしないんですね。公衆道徳の考え方の相違でしょうが、それよりも大雑把と言うか、細かいことに拘泥しないということでしょう。こじつけになりますが、政治・経済・社会すべての面でこの辺が日本と違うのではないのでしょうか。欧州人がみなそうかわかりませんが、少なくともアングロ・サクソン系は原理原則には大変うるさいし、守るべき大筋のルールを明確にしないと気が済まない。ただ細かい点にはこだわらないというか、神経を使わない。そんな風に考えます。当たっているかも。

多くの英国人家庭では、食事のあと汚れた皿・スプーンの類を洗剤液の中に放りこみ、汚れを拭ってそのまま洗いかごに並べる。要は最後に水ですすがないそうです。実際に見たことはありませんが、英国生活の長い日本人が揃って言っていることだから間違いないでしょう。英国人と再婚したある日本人男性の話ですが、懇願して水でのすすぎをしてもらおうようにしたとのこと。何で

そんなことを気にするのか、奥さんには最後まで理解はしてもらえなかったとのことです。何が清潔かという考えの違いですね。洗剤で洗っているから清潔は清潔。だけど残留洗剤がと気にすると、レストランでも食べられません。レストランも家庭と似たようなものでしょうから。だから気にしないようにしています。英国人の寿命が短いわけではありませんので。

英国人は洗剤好きなのでしょう。大衆レベルのレストランでは、隣のテーブルの客が帰ると、洗剤入りスプレーをテーブルにシュッとやりながら掃除が始まります。こちらがすぐ近くで食べているのです。飛沫が飛んできそうな気がしますし、洗剤の臭いが漂って来て気分は悪いですね。「ちょっと待ってよ、こちらは食べているんだよ」と抗議したくなりますが、何で抗議されるのか彼らは理解できないでしょうね。「食」の国フランスでも隣でシュツ・シュツやるかな。今のところ経験はありませんが。

[英国領ジブラルタル]

大英帝国の名残で英国には遠く離れたアフリカやカリブ他に海外領土が存在します。

アルゼンチン沖のフォークランドはサッチャーさんの活躍で良く知られていますが、スペインの南端にひっそり存在するジブラルタルも立派に英領で、最近またスペインと揉めはじめたようです。発端は漁業関連で、怒ったスペイン側がジブラルタルへの出入国審査で嫌がらせをしているとのこと。人の出入りだけでなく、今後もしも野菜の搬入などでも規制が強まると自活できないジブラルタルには死活問題になります。キャメロン首相はこれに対し法的手段に訴え

ると警告しています。今頃 EU の国同士で何で領土紛争かと思いますが、戦後どころか 300 年間の係争案件なんですね。世界史の勉強で一生懸命覚えた 1713 年のユトレヒト条約で英国領になって以来、スペインは一貫して英国領とは認めていないそうです。海峡を見下ろす軍事要衝の巨大岩山がほとんどのような狭い土地に 3 万人が住んでいますが、どういう生活をしているのでしょうか。BBC のニュースでは Fish and Chips を食べているシーンが報じられていました。多分英国の生活パターンを守っているのでしょう。ジブラルタル海峡を押さえるという軍事的意味は薄くなっており、本国政府は過去に数回スペインとの共同統治構想を検討したようですが、住民の猛反対でつぶれました。それ以来共同統治構想は捨ててしまったようです。本国の英国人の関心は今のところ低いようですが、ジブラルタルは人気観光スポットですから、スペインの態度次第では本国人世論も熱くなる可能性は十分です。スペイン側の「返せ、返せ」の声はますます強まるでしょうし、スペイン王室もかなりこだわっているようです。1713 年の割譲はスペイン王位継承戦争の結果でしたから、王室としては当時の敵国を許し難い気持もあるのでしょう。ジブラルタルは「スペインの中の英国」で、外国人から見ると英国に分は無いのですが、領土問題はそうは簡単にいきませんね。キャメロンがスペインに譲歩したら、それこそ政権はつぶれるでしょう。香港は長期租借権だったから期限が来れば返すで良かったのですが、ジブラルタルはそうはいかない。大人の話し合いしかないでしょう。

2013年9月9日

増淵 文規